

4/25 史跡キウス周堤墓群を学び、継承する
ガイダンスセンターがオープン



縄文時代の集団墓地群「史跡キウス周堤墓群」のガイダンスセンターがオープンし、小雨の降る中、オープニングセレモニーが行われました。ガイダンスセンターは史跡の保存や活用、継承を図るための学習施設で、出土品を実物展示しているほか、史跡の歴史的価値などを壁面展示や映像モニターで紹介しています。また、史跡の全体像を俯瞰するジオラマ模型を設置し、映像と連動させるなど、理解が深まる工夫もされています。「キウス周堤墓群を守り活かす会」の会長は、「オープンをきっかけに、史跡のことを多くの人に知ってもらいたい」と今後を期待を込めました。

【開館時間】 9時～17時(11月は9時～16時)
【休館日】 冬期(11月下旬～4月下旬)
【入館料】 無料



4/13 航空業界を志す若者たち
364人が夢への一歩



日本航空大学校北海道校と日本航空高等学校北海道校が、合同で入学式を開催。制服に身を包んだ新入生364人(大学校285人、高校79人)が夢への一歩を踏み出しました。昨年4月に開校し、2年目を迎えた高校では、新入生が最初のホームルームに参加。式典時にはやや緊張した面持ちだった新入生たちも、ホームルームを経て次第に打ち解け、早くも和気あいあいとした雰囲気となりました。昨年のオープンキャンパスに参加し、入学を決めたという青沼優蔵さん(総合ステージ)は、「英語を頑張って習得し、将来は英語を活かした職業に就きたい」と決意。小学生のときからCAになるのが夢という佐藤杏莉さん(キャビンアテンダントステージ)は、「語学力を身につけ、将来は、空の安全を確保できるいつも笑顔で親切なCAになりたい」と抱負を話してくれました。

4/5 企業と住民が力を合わせ
未広中区町内会 清掃活動



未広中区町内会において、約40人が町内を巡回し、道路や公園に落ちていたごみを拾いました。この清掃活動には、ラビダス(株)の工場建設などに関わる企業8社から20人が参加。企業の参加は、町内に通勤バスの停留所を設置したり、バス運行ルートを設定したことが縁となって、おとし11月から地域貢献活動の一環として始まりました。清掃活動以外にも、夏祭りなど町内のイベントにも積極的に参加しています。ダイダ(株)の島田正明理事は、「まちをきれいにし、住みよい環境づくりに貢献できたら」と話し、未広中区町内会の松本一光会長は、「当町内会は、清掃活動に力を入れている。企業の皆さん、地域の皆さんのおかげでまちがきれいになり、ありがたく思う」と参加者への感謝を話していました。

4/7 春の全国交通安全運動
「セーフティコール」を実施



市は、千歳市交通安全運動推進委員会と共催で、「セーフティコール」を行いました。4月6日から15日までの10日間で全国一斉に展開される《春の全国交通安全運動》にあわせ取り組まれる啓発活動で、千歳警察署員や交通安全運動推進委員会の会員ら約240人が参加。交通量の多いANAクラウンプラザホテル千歳からイオン千歳店前周辺の道路沿いに立ち並び、「スピードダウン」「チャイルドシート、シートベルト着用」と書かれた旗を掲げながら、通過車両に対し交通事故防止を呼びかけました。市民生活課防犯・交通安全係の寺嶋係長は「予定より多くの方が集まってくれた。参加者やドライバーの皆さんが改めて交通安全を考えるきっかけになってくれれば」と話しました。

4/11 千歳市議会議員選挙
執行本部が発足



5月25日執行の千歳市議会議員選挙を前に、市選挙管理委員会は執行本部を設置しました。執行本部は三ツ野本部長以下20人で構成され、総務班、期日前投票班、啓発・設営班に分かれて職務にあたります。設置にあたり、藤田事務局長は、「今回4年ぶりに行われる市議会議員選挙は、市民にとって最も身近な選挙です。私たちの声を市政に届ける方々を選ぶ、極めて重要な選挙となりますので、ぜひ有権者の皆さんは投票に足を運んでください」と呼びかけました。

人々のうごき

《総人口》
97,074人(+571)
男性 49,354人(+361)
女性 47,720人(+210)
《世帯》52,617世帯(+519)

()内は、前月との比較です。

5-1 現在

広報ちとせのおわびと訂正

広報ちとせ4月号15ページ「医療的ケアが必要な方への支援を拡大します」の、二次元コードのURLが誤っていました。おわびして訂正します。

正しい二次元コード

手づくりの着陸場から新千歳空港へ開港100年の歴史を振り返る

ちとせ空港 Vol.25 丘珠との誘致合戦

民間航空誘致活動

GHQによる航空禁止令緩和を受け、国内では民間航空の再開に向けた動きが活発化していました。同時に、北海道ではどの飛行場が民間航空用として選ばれるかが大きな関心事となっていました。

「ここで民間航空を誘致できるかが、今後の町勢の分かれ目だ」
そう考えた当時の千歳町長、山崎友吉は、自ら先頭に立ちGHQへの直談判を試みます。

「北海道千歳町に在る千歳飛行場を日本国内航空運送事業の開始にあたって航空会社に使用せしむるよう懇請する」
さらに、国内で運航していた海外の航空会社にも同様の要請を行い、国

対する陳情活動も精力的に行いました。
丘珠との誘致合戦
千歳以外の候補では、日本陸軍が戦時中に建設した札幌第一飛行場(丘珠)も有力視されており、両者間で激しい誘致合戦が起こりました。

丘珠と千歳は、どちらも滑走路延長が1200メートル。戦前の実績や札幌への利便の面では丘珠に分がありました。積雪量の少なさと、1年を通して南北風が卓越する(横風が少ない)という気象条件の良さをアピールしました。

当時の千歳町長 山崎友吉